

室蘭港の観光船「ライジング・ドラゴン」に会う

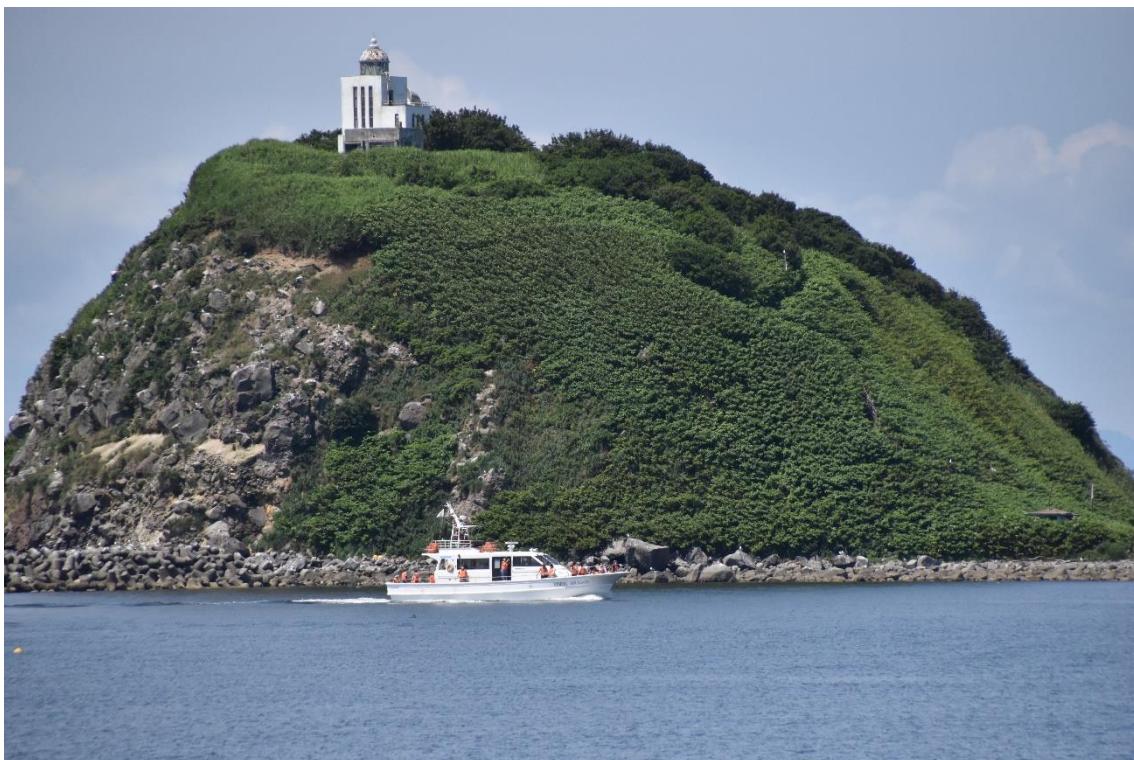
2022.8.3 事務局長 池田良穂

7月29日に開催された室蘭港開港150周年・市制100周年の記念式典に出席のため、久々に室蘭を訪れました。室蘭は3歳から18歳までを過ごした故郷で、子供の頃には父に連れられて室蘭港内の遊覧船や通船、海上保安庁の船などによく乗りました。港内遊覧船・通船が姿を消して久しいのですが、訪れてみると観光船2隻が復活していました。乗場は、白鳥大橋の絵鞆半島側の基部近くにある道の駅みたらの近くの岸壁です。

運航するのはスターマリン社で、運航は4~11月。地球岬クルーズ(1.5時間)、港内クルーズ(40分)、ナイトクルーズ(1時間)、大黒島クルーズ(15分)、イルカウォッチング(2.5時間)で、工場夜景を見るナイトクルーズ以外は10時と14時発となっていました。2隻しか船はないようなので、こんなに多彩なクルーズを運航できるのか不思議に思っていましたが、案内所で聞いてみると予約が優先で、その日のクルーズが決まる様でした。

子供の頃に乗った港内クルーズをしたかったのですが、滞在する3日間ともに既にイルカウォッチングや地球岬クルーズで既に満杯の状態で、港内クルーズは行えないとのことでした。また、予約しておいても5人にならなければ出港しないとのことでした。料金は3000円で、5人分の15000円を払えば予約が有効になるようです。

AISでチェックすると港内滞在船は10隻余りおり、いずれも企業の専用岸壁に停泊しているので港内クルーズでなければ見られないのですが、乗るのは次回として、道の駅のカフェで観光船の戻りを待っている間に1隻の貨物船が入港してくるのを見ることができました。



大黒島をバックに入港してくる観光船「ライジング・ドラゴン」です。



13 時半にイルカウォッチングクルーズから戻ってきた観光船「ライジング・ドラゴン」。乗客は全員ライフジャケットを着ていました。同船は 14 時から再びイルカウォッチングに出港していきました。2 時間半の航海で料金は 8000 円です。夜になると背景の化学工場の夜景が奇麗とのことです。



ポンツーンに停泊していた観光船「ライジング・サン」。この船は、当日は運航されていませんでした。



道の駅みたらの親水岸壁です。子供たちが、短い北海道の夏を楽しんでいました。



入港してする貨物船「ダイヤモンド・スター」です。荷役装置として回転式クレーン 2 基とデリック 2 基をもっています。2 隻のタグボートが付き添っていました。



室蘭港に完成したクルーズ船埠頭で、東北・北海道で唯一世界最大級の 23 万総トンのオアシス級船を受け入れることができます。道の駅みたらに隣接しています。



翌日、港がよく見える測量山に登ると、室蘭港まつりのイベントで回転する2隻のタグボートが見えました。背景はフェリーターミナルですが、今では利用するフェリーがなくなっています。



もう一隻のタグボートが放水を披露していました。



手前から中央ふ頭、フェリー埠頭、そして日本製鋼所の岸壁・工場です。室蘭港の中は公共埠頭が少なく、企業の岸壁が多いのが特徴です。



測量山から見た室蘭港の全景です。



絵鞆の展望台から見る室蘭港の入口です。大黒島が防波堤の先端にあります。



室蘭港は絵鞆半島に囲まれた天然の良港で、半島の外側には絶壁が続いています。その絶壁の上に立つ地球岬灯台です。規模は小さいですが、イギリスのドーバーの壁に似ています。